



◆小地域福祉ネットワーク研修会を開催しました(7月24日)

八木山地区社協の「わんわんパトロール・おさんぽパトロール」も4年目、ながら見守りで無理なく地域の安心・安全を、と始めたものですが、通報の事例はなく、平和な八木山です。また、参加者の情報交換会では、あいさつからのコミュニケーションが楽しい、地域のつながりが何よりも大切という意見が大勢です。

一方で、仙台市地下鉄東西線が開通して10年になります。若い家族の転入に伴って、小学校への入学者数も年々増加し、八木山全体が若返ったようです。

7月24日に行われた地区社協の小地域福祉ネットワーク研修会では、従来の住民と新しく八木山地域の住民になった方々が楽しく交流しつつ暮らすことができる地域であるようにと、世代間交流の在り方をテーマにしました。

仙台市社協太白事務所主幹CSW菅原恭子様の講話とYARVOG並河浩一様の「もっと八木山を知ろう！かるたで集い かるたで繋がろう！」のお話を聞いた後、グループワークでいままでの地域での様々なイベントや取り組みを世代間交流に注目しながら、これからの課題について意見交換をしました。「世代間交流」の形はいろいろありますが、まずはあいさつをしてみませんか？



こども食堂 ヤギーズごはん

9月29日、八木山地区に「こども食堂」が出来ました。「仙台市こども食堂助成金」を得ながら、地域の有志の方々と運営されます。

みやぎ生協八木山店の集会室で毎月2回月曜日午後3時から5時(受付は午後2時から)の少し早めの夕飯という時間です。高校生以下無料(小学生以下は保護者同伴)、大人300円です。

「こども食堂」という名称ですが高齢者の来店も歓迎だそうです。現在のメニューはカレーライスと果物ですが、今後、和食の定食も加わる予定です。

11月以降の実施日は下表の通りですが、月2回実施されます。おしゃべりしながら楽しい食卓を囲みましょう。

Instagram <https://www.instagram.com/yagiisgohan/> で情報配信をしています。

お問い合わせ g.o.a.t.yagiis@gmail.com



みやぎ生協八木山店脇
 集会室
 15:00~17:00

11月	12月	1月	2月	3月
10日(月)	8日(月)	19日(月)	9日(月)	2日(月)
24日(月)	15日(月)	26日(月)	16日(月)	9日(月)
				23日(月)

SNSって一体全体どうしたもんだ??



- ① 知らぬ間に「いいね」押してた 孫の友
- ② 既読なの? 聞けずに今日も 未返信
- ③ スマホより 人の顔見て 話したい
- ④ 映え狙い 孫に撮られて 照れ笑い
- ⑤ つぶやいた はずが町内 大騒ぎ
- ⑥ 通知音 鳴るたび胸が ドキドキ
- ⑦ フォローされ 誰だかわからず お辞儀する

SNSとは、Social Networking Service(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の頭文字を繋げた日本特有の造語で、欧米などではsocial media(ソーシャル・メディア)と表現されるのが一般的になっています。

インターネット上で人と人がつながり、情報を発信したり交流したりできるサービスのことです。近年、若い世代を中心に広まったSNSが、TVと同等以上の影響力を持つ時代になりました。

SNSでは、一般ユーザーを始めとして芸能人・有名人・政治家などあらゆる職業・立場の人々が対等にコミュニケーションを取れるのが大きな特徴です。インターネットの繋がる環境であれば、スマホ・パソコンを含む様々なデバイスを用いて、テキスト・写真・動画などで交流を深めることができます。

SNSの代表例5種類の特徴を比較

- ◆LINE(ライン):メッセージのやり取り
- ◆X(旧Twitter):短い文章で情報発信
- ◆Instagram(インスタグラム):写真・動画の共有
- ◆Facebook(フェイスブック):友人や家族との交流
- ◆YouTube(ユーチューブ):動画の投稿と視聴



そこで!!! 社協も 遅ればせながらのIT化構想!



みなさんご存知の通りPCやスマホなどを使いさまざまな情報が行き交うIT社会となっております。私たち八木山地区社会福祉協議会でもこの流れに乗り遅れないよう従来の紙面による情報発信に加えてIT技術を積極的に取り入れていくこととなりました。これにより内部のコミュニケーションの活性化と幅広い世代に私たちの活動を発信することを目指しております。

具体的には…



・内部的には社協メンバー同士でLINEを利用してコミュニケーションの向上とITへの免疫を獲得する(習うより慣れろ)。



・対外的には社協オリジナルのホームページを作成(計画中)し、これまでの紙面での情報やさまざまな活動をいつでも、どこでも、そして幅広い世代(特に若い世代)へ発信し、本活動の理解を得て行きたい。

などを計画しております。ホームページが作成できた際にはお知らせいたしますのでお待ちください。

そう
ご期待!



◆みんなのカフェ

令和7年度の「みんなのカフェ」は、8回を計画・実施



4月	タケノコ掘り
6月	モルックで遊ぼう
7月	出前カフェ 青山第一町内会
9月	スマホ交流会
11月	出前カフェ 大崎町内会
1月	希望の星との交流会 (B型就労支援事業所)
2月	スマホ交流会
3月	ボッチャで遊ぼう

◆出前カフェ～簡単に健康チェック～

7月19日(土)10時から青山第一町内会の好日庵を会場に、下肢筋力や野菜摂取量、脳年齢のチェックを行いました。

好きな時間に立ち寄り、20人近い方が訪れました。結果にハラハラもありましたが、お茶を飲みながら楽しい場となりました。



何故！？ 高齢者虐待は起きるのか

令和7年6月26日
八木山地域包括圏域会議

令和7年6月26日、「支え合う地域づくり～高齢者虐待の現状と高齢者虐待防止ネットワークについて」をテーマとして八木山地域包括圏域会議を開催いたしました。

高齢者虐待と聞くと、あまり身近に感じない方も多いかもかもしれません。しかし、八木山地域では令和4年度で10件、令和5年度で11件、令和6年度で7件、包括へ相談が入っています。すべてが虐待と判断されたわけではありませんが、“虐待かもしれない”と感じたケースがこの件数ということです。そう考えると、決して自分には関係のない話ではないかもしれません。



“虐待”と聞くと、叩くなどの身体的虐待をイメージされる方が多いかもしれませんが、それだけが虐待ではありません。高齢者虐待の種類としては、**①身体的虐待 ②介護・世話の放棄、放任(ネグレクト) ③心理的虐待 ④性的虐待 ⑤経済的虐待**に分けられます。

令和6年度、太白区内で相談内容の内訳として最も多いのは身体的虐待ですが、他の虐待と複合的になっているケースも多い状況です。こういった言動が虐待に繋がるのか、一人ひとりが正しい知識を持つことも大切です。

高齢者虐待が起きる要因はさまざまです。しかし、その中でも**“介護負担”は大きな要因の一つ**になり得ると考えています。家庭内のことはなかなか目に見えにくく、周りを頼れずに抱え込んでしまった結果、虐待に発展してしまうケースが多いように感じています。家庭内のことを周りに発信することは勇気が必要ですが、周囲の声かけや見守りがあることで小さな変化や気づきとなり、結果として虐待を未然に防ぐことに繋がるかもしれません。
引き続き、情報提供やご協力をよろしくお願いいたします。

～実は虐待する側也大いに悩んでいるのです～

家庭内の高齢者虐待が起きる要因は、心理的要因の他に家庭・人間関係の要因、社会的・制度的要因、被虐待者（高齢者）側の要因などが複雑に絡み合っています。単純ではありません。

◆心理的要因(介護者・家族の心の負担)

◆介護ストレス・バーンアウト(燃え尽き症候群)	長期間の介護疲れ、睡眠不足、孤立感などが怒りや暴言につながる
◆感情の歪み(甘え・逆転した関係)	「家族だから分かってくれるはず」という甘えや期待が裏切られ、怒りになる
◆支配・コントロール欲求	無意識に「自分が正しい」「言うことを聞かせたい」と思ってしまう心理
◆認知症への理解不足	言動を「わざと」と誤解し、叱責や暴力的対応をしてしまう

燃え尽き症候群



◆問題は介護疲れ等で介護者・家族が**燃え尽き症候群(バーンアウト)**に陥ってしまつて、家庭崩壊に直面しているケースです。相談しにくい問題もはらんでいることから、なかなか表面には出てきませんが、早めに地域包括支援センターへ相談することが重要です。また、大きな問題として地域の中で取り組んでいく必要があります。

～新しい認知症観～とは？

「新しい認知症観」

9/12、今年度第2回目の八木山地域包括圏域会議を開催いたしました。今回は「みんなで学ぼう！新しい認知症観」をテーマとして講話をいただきました。令和6年1月1日に「認知症基本法」が施行され、現在「新しい認知症観」という言葉を耳にされる方も多くいらっしゃるのではないかと思います。「認知症になると何もできなくなる」というイメージを持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、**「認知症になったら何もできなくなるのではなく、できること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間と繋がりながら、役割を果たし、自分らしく暮らし続けることができる」という考え方が「新しい認知症観」です。**



認知症の基本計画

新しい認知症観

認知症に誰もがなりうることに前提に
住み慣れた地域で希望を持って生きることができる

4つの重点目標

国民の理解 地域での安心な暮らし
本人の意思尊重 新たな知見・技術の活用

“効果を評価するための指標を設け
立案の見直し行うことも重要。”

認知症の診断を受けた場合、進行することでこれまで当たり前に行っていたことが難しくなることがあるかもしれません。しかし、少し周りが寄り添うことで自分の役割としてこれからも継続できることがたくさんあるはずです。

“認知症だから”と線引きをして「支援される側」と捉えるのではなく、本人の声に耳を傾けともに考えることが大切です。このような視点を一人でも多くの方に知っていただくことで、認知症の診断を受けた方でも安心して地域で生活していくことができるのではないかと考えています。

一人ひとりが何か特別なことをする必要はなく、**“認知症を正しく理解すること”が大切**です。認知症は決して他人事ではなく、誰もがなる可能性があります。「認知症になっても大丈夫」と希望を持って住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、私たち地域包括支援センターとして、これからも地域の皆様と一緒に学びを深めていきたいと思ひます。

(八木山地域包括支援センター 022-229-0811)

令和7年度八木山社会福祉協議会納入状況

令和7年10月1日現在(単位:円)

町内会名	普通会員	特別賛助会員	合計
青葉苑	32,700	1,000	33,700
青山	19,200		19,200
青山第一	48,600	5,000	53,600
青山二丁目	51,000	2,000	53,000
青山恵	43,200		43,200
恵和町	84,000	2,000	86,000
桜木町	123,000	11,000	134,000
さつき	11,100	5,000	16,100
松が丘	130,200	2,000	132,200
みつば	12,000		12,000
八木山八光台	40,500		40,500
八木山東	63,000		63,000
八木山本町第一	124,200	1,000	125,200
八木山本町二丁目	150,000		150,000
緑花	51,000	5,000	56,000
八木山団地緑風会	11,700		11,700
若葉苑自治会	23,700		23,700
八木山民児協		23,000	23,000
合計	1,019,100	57,000	1,076,100

★ご協力有難うございました

～編集後記～

暑い暑い夏がやっと終わり、穏やかな秋が来るとホッとしたのもつかの間、おなかをすかせた熊が山から下りてきています。各地で熊の被害が相次ぎ、恐ろしいことだと思っていましたが、八木山でも目撃情報があり心配です。残念ながら中止に追い込まれるイベントもありました。

温暖化の影響か、食べ物があれば冬眠をしない熊もいるという話を聞きました。冬の間も気が抜けないかもしれません。他人事(ひとごと)と思わず、注意して暮らさないと…。

(連絡先) 大野貴子

